



戦後80年を迎え、今一度平和の尊さ、平和な世界について真剣に考え、世界の平和を誓いました。

大華中学校のユネスコスクー

平和の鐘を鳴らそう

- 平和の鐘を鳴らそう
- ユネスコ平和七夕茶会
- 平和の島スピーチコンテスト
- 周南フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会 戦後80年共同企画

徳山ユネスコ協会は、次の事業を重点活動として企画運営しました。

昨年は終戦の年から80年。周南市では戦争実態を次世代へ継承していくため、さまざまなイベントが開催されました。

戦後80年事業プロジェクト



発行所
徳山ユネスコ協会
周南市岐山通1-1
周南市生涯学習課内
電話 22-8621
E-mail: ed-shogai@city.shunan.lg.jp
印刷所 (有)精文社



私は、戦争の悲惨さを示す場所に行ったのはこれが初めてではありません。しかし、こういうところで訪れるたびに心が重くなったような嫌な感覚になります。太陽の照りつける8月15日、終戦から80年が過ぎました。実際に戦争を

平和、今の私たちにとって当たり前のようで、そうではないもの。私はこの度の平和の鐘を鳴らそう運動に参加してその大切さを改めて知ることができました。

井村 啓人

周南市立太華中学校 3年

「平和の鐘を鳴らそう」に参加して

ル生徒、晃英館中学校、秋月中学校の各生徒の皆さん、市長ほか行政関係、外国語指導助手など約120名が参加しました。中学生の力強い先唱で「私たちの平和宣言」を唱和し、参加者一人ひとりが世界平和を願い鐘をつきました。

経験した人はごく一部だけになってしまいました。しかし長い時間が過ぎても、私たちが忘れてはならないものがあります。受け継ぐべき意思があります。戦争を繰り返してはなりません。回天記念館ではあるものを聞きました。遺書です、回天に乗り込んで命を散らした若者が肉声で残した遺書です。文面には愛国への忠誠が、家族への感謝が綴られていました。しかし、声色には決意の裏に恐怖が隠れていました。敵を倒してお前も後を追えなんて残酷な命令、受ける方も出す方も心がえぐられてしまいます。こんなことは絶対にあってはなりません。私はこれから世界の平和を祈っています。

ユネスコ平和七夕茶会

昨年、戦後80周年を迎えるにあたり、「ユネスコ平和七夕茶会」を開催いたしました。鵬雲斎宗匠ご提唱の「一盃からピースフルネスを」、茶道の四規「和敬静寂」、そしてユネスコ会員網「心の中に平和の守りを固めよう」。これらの言葉をテーマに、日本の平和が有難いことを若い人に理解していただき、茶道の楽しさやお茶とお菓子の美味しさを伝え、今後、茶道に気楽に参加していただきたいと願って計画いたしました。

学校茶道を実施しておられる、各学校の校長先生にお願いに参上したところ、皆さま大賛成で教頭先生が終日ご参加してくださいました。

学校茶道を実施しておられる、各学校の校長先生にお願いに参上したところ、皆さま大賛成で教頭先生が終日ご参加してくださいました。

茶席は正面の高めの舞台に間仕切りを横に並べて黒幕を貼り付け、中央に鵬雲斎宗匠筆「織姫年々渡」の短冊を掛けました。その後ろの黒幕にはイルミネーションライトを天の川のように流して飾り、お客様を「あつ」と驚かせ喜ばせました。茶杓は鵬雲斎宗匠作「和の心」、香合はガラス製の「笹舟」にしました。茶席は点前、運びなど全てを周陽中学校、晃英館中学校、桜ヶ丘高等学校、華陵高等学校、周南公立大学の学校茶道の生徒が楽しんで取り組んでくれました。水屋は淡交会周防支部徳山支所と徳山ユネスコ女性部が消毒を第一に気を付けて行いました。

市民の皆さまにも喜ばれ、学校茶道部も部員が増えて喜んでいます。

参加して下さる学校もあり、感謝いたしました。

周南市保健センターの広い多目的ホールを待合席と茶席に分け、待合席ではお客様に短冊へ思い思いの願いを書き、折り紙などで笹飾りをしていただきました。その後、隣の茶席へ。



平和の島 スピーチコンテスト

「平和の島スピーチコンテスト」では、回天（人間魚雷）の訓練基地跡が残る大津島を有する周南市で、今を生きる若者たちが平和な世界の実現に向けてできることを考え、恒久的世界平和を願うメッセージを発信しています。

山口県内の中学生・高校生を対象にスピーチ作品を募集して、一次審査（作品選考）を通過した生徒たちは壇上でスピーチを披露します。2025年度は、総計111作品の応募があり、中学生9名・高校生3名がスピーチしました。

昨年は戦後80年の節目でもあったため、ウクライナ出身の古谷ニーナ氏による講演や、山口県立徳山高等学校の生徒による平和に関するポスター発表および英語でのスピーチ、「平和志向のまちづくりの会」（周南公立大学の学生が結成）による発表も実施しました。



平和教育の一環にもなっている「平和の島スピーチコンテスト」今後も引き続き、次代を担う若者たちと一緒に

に平和について考え、世界平和の実現に向けて取り組んでいきます。

回天を通して深める 平和への思い

山口県桜ヶ丘高等学校と晃英館中学校は、オーストラリア・クイーンズランド州のキャセドラル学園と姉妹校の関係にあります。



昨年9月、キャセドラル学園から26名の中学生が本学園を訪れた際には、共に回天記念館を訪れ交流を深めました。館内の日本語で書かれた展示資料は、徳山ユネスコ協会英会話教室の方々が翻訳し、キャセドラル学園の生徒たちに伝えてくださいました。英語圏の中高生が回天記念館を訪れるのは今回がはじめてでした。

晃英館中学校 3年

山本 渉未

二度とくり返してはいけくない悲劇という言葉が多く耳にしました。みんなただこういうけれど、昔の人たちだっただけの大切さは十分に分かっていたはずなのに、このような方法をとったという事についてより考えるべきだと思います。日本だけではなく、外国

の人たちも同じです。平和を目指す上でどのような考えをもつべきなのか、世界中で考えていき、平和な世界を現実的なものにしていきたいです。

山口県桜ヶ丘高等学校普通科特進コース

2年 国本 光由

ずっと今まで疑問だった「日本は敗北してしまったのに、特攻隊をつくり出撃させる意味はあったのか」を、自分の中で解決することができました。彼らの願いは「大切な人たちが安らかに生きることができるようになること」で、そのためには自分たちの犠牲が必要であると思っていたことを改めて知り、感動しました。母国が勝利することを願って、死んでしまうということが分かっていながらも誇りをもって出撃する搭乗員の真剣な顔つきが、とても心に刺さりました。両親に心配されぬように、遺書には「元気に出撃してまいります」とポジティブに明るく書き留めることもしんどかったと思います。自分と同じ年齢の子が出撃して亡くなったと聞いて、私だったら訓練場を逃げ出してしまうと思いました。親と離れて死ぬかもしれない過酷な訓練を受けるなんて、寂しくて私には耐えられそうもないです。それほどの覚悟をもって地方へ集まって国のために最期まで戦ってくれた隊員を、今では誇りに思っています。

オーストラリア キャセドラル学園

フロメク デニス

島を訪れると、誰もがこの島の重要

性と歴史を理解していることが伝わってきました。島を歩きながら、彼らが魚雷の訓練や輸送を行っていた場所を見ると、任務に出る日が刻々と近づき、二度と陸地を見ることはないだろうと考えると胸が痛みました。パイロットたちの遺品を見るのは、彼らの最期の瞬間を綴った伝記を見るようで、ただただ悲しくなりました。忘れられがちな日本史の一端を目の当たりにする貴重な体験でした。

周南フィルハーモニー管弦楽団 第22回定期演奏会 徳山ユネスコ協会共同企画

昨年9月の定期演奏会は周南市戦後80年事業プロジェクトの一環として、周南フィルハーモニー管弦楽団と徳山ユネスコ協会共同企画で開催され、開演前に山口県桜ヶ丘高等学校普通科晃英館コースの生徒が平和を願ってスピーチを披露しました。





英会話教室

新たな英会話との出会い

内山 俊一

私の英会話との出会いは大学4年生の時、ふとした海外旅行がきっかけで海外で仕事をしたい、異なった環境で生活してみたいと思うようになり、街の英会話塾に通い始めてからです。勿論私も他の子と同じように勉強しましたが、目的や勉強方法も掴めず成績はビリの方でした。

その後は長年プラント建設の仕事に従事し、仕事柄中東やその他のアジアの国の勤務も多く、それらの国や世界中からきた人々と一緒に仕事をさせていただきました。地域柄、実際にはスムーズに行く仕事よりトラブルの処理が圧倒的に多く、英語力というより交渉力の方が重要でしたがいろんな英語の使い方を知り大変勉強になりました。



退職した今、ユネスコの英会話を学ぶ目的はこれまで訪れた国などまた一つずつ旅行したいからです。懐かしい顔との再会、新たな体験は楽しいものですが、今の時代、予約の仕事、システムなど、

其れ等に関わる英語の使い方も変化しており浦島太郎にならないことも重要です。



ユネスコスクール

本校のユネスコスクール活動

周南市立太華中学校 3年 高松 芽生

太華中学校は周南市唯一のユネスコスクールとして、ボランティア活動を盛んに行っています。地域行事の準備や片付け、清掃活動、小学校での挨拶運動など、私もボランティア委員会の委員長になる前から、様々な校外活動に参加してきました。

また、校内活動でも多くの取り組みを行ってきましたが、私は特に、ペトボトルキャップの回収が強く印象に残っています。今年度も、全校生徒で力を合わせ、合計四三、七〇六個のペトボトルキャップを回収することができました。それらを使い、ペトボトルキャップアートを作成し、10月の文化祭で発表、展示を行いました。作成時には、学年を超えて委員全体で協力することを心がけ、とても良い雰囲気の中で作業することができました。展示を終えた後、集まった大量のキャップを昨年度末に「周南市環境館」へ直接届けました。市役所ではその収益で、世界の子どもたちにワクチンを届ける取り組みを行っています。自分た



第72回山口県ユネスコ大会
功労者表彰を受けました。



第72回山口県ユネスコ大会

11月2日、山口市のかめ福オンラインで県ユネスコ大会が開催されました。当日は県内9団体103名参加、当協会から師井会長以下11名が参加しました。

大会では、改めてUNESCO憲章の理念に基づき、国際的な視野で身近な活動を行い、平和の礎を築くことを参加者全員で誓いました。

また記念講演では、山口大学国際総合科学部教授の小川仁志先生より「今私たちはどこに立ち返るべきか」21世紀の平和・人権・真実」について学びました。

また今大会で、当協会徳満陽一理事が県ユネスコ連絡協議会会長岡崎天隆氏から、ユネスコ功労者表彰を受けました。



国際支援事業(女性部) 世界寺子屋運動

徳満理事は平成27年に当協会の理事に選任、以来今日までユネスコ協会活動の記録保存や、年一回発行されるユネスコ通信の編集などユネスコ活動の普及振興に取り組み、その功績が認められ表彰されました。今後の益々のご活躍を期待します。

昨年度も市内の小・中学校・一般の方々からも沢山の書きそんじハガキ・未使用切手が届きました。



この運動は、一九八九年からユネスコ協会の一つの事業として全国展開して、多大の実績を継続しております。

世界では、不条理な戦争や紛争が多発して心が痛みます。特に多くの子供達は、戦禍を逃れて、テント生活を余儀なくしている状況では、学びの機会を失って、健やかな成長も出来ないことでしょう。

このような時代ですが、世界寺子屋運動では、アフガニスタン・カンボジア・ネパール・ミャンマー・依然として続くウクライナ戦争中東の戦火も拡大している中でも活動しています。一枚のハガキ・切手でも集めれば、大きな力になります。

昨年度のご支援状況

★書きそんじハガキ・未使用切手他
★送金合計 59,500円

早速日本ユネスコ連盟に送金致しました。

今後もこの運動をご理解下さって、暖かい心をお届け下さい。



周南公立大学 3年

高野 葵

私たち笑く咲くプレイスは、2023年10月に初開催を迎えてからこれまで27回の子ども食堂を開催してきました。スタートから2年目となる今年度は地域の方や教育機関、他の子ども食堂様との関わりも増え、大学生一同たくさんの経験をさせていただいています。毎月お花やケーキを届けてくださる地域の方やアドバイスをくださる方など皆様の温かいご支援に心より感謝しております。また毎月のように参加してくださる子ども達、ご家庭には感謝の気持ちでいっぱいです。



今年度も子ども達に季節や文化を感じてもらえるよう本物の竹を使ったそう

めん流しや絵馬作りなど、大学生ならではの発想で子ども達と学び楽しむ場を作ってきました。大学生が子ども食堂を開催する意義は、貧困や地域コミュニティの希薄化といった社会課題に目を向け行動できる人材に成長することです。開催をしていく中で子どもとの接し方や運営の活性化を学ぶだけでなく、社会課題の本質やこれからの未来どうしていくべきかを一人ひとりが思考できる団体を目指しています。

これからは更に他の子ども食堂様へのボランティア参加やイベントの開催を通じて、子ども達と共に楽しく学びを深めていきたいと思っています。



毎年恒例のいなかの学校を7月22日から31日まで開催しました。今年は一日本体で須金に集合したら、ツリークライミング(高い木にロープを使って登る)、森のアーチェリー(山の中でアーチェリー)を体験しました。そして昼食を食べてから川に移動して、ラフティングボート、スタンドアップパドル、水鉄砲を使って川遊び体験。すべての体験が自然を生かした非日常の体験です。チームのみんなで協力したり、助け合ってアクティビティは進んでいきます。最後にこども哲学。日頃不思議だなあ、というモヤモヤする疑問を話してその謎をみんなで語り合いながら深めていく体験です。元氣よく

発言する子、人の話を一生懸命に聞く子、参加のスタイルは人それぞれ。

一日の活動ですが、みんなとつても楽しく、学び、遊びました。こんな徳山ユネスコ協会



冬の自然体験学習

2月21日に周南フレンドパークにてツリークライミング体験と木工体験を行いました。公園にある大きなクスノキにロープをかけて、ヘルメット、クライミングギアを装着すると子供たちはツリークライマーに変身。モクモク体操という、木の真似をする準備運動をしたら木に向かって大きな声で「よろしくお願いします」と言っているからにはじまります。



木工体験は、いろんな木を使ったお箸づくりです。世界にはたくさん種類の木材があります。好きな木を選んで、ひたす

ら紙やすりで美しくなるまで磨きます。ツリークライミングの体験とお箸を握りしめてユネスコ冬の自然体験学習は終わります。



ご寄付の報告

碧の会代表者、徳原万希子様から徳山ユネスコ協会の活動に対して3万円のご寄附をいただきました。碧の会は有志が2か月ごとに集まる会です。会員がそれぞれ毎回気持ちを集め、それをボランティア団体の活動に対して寄附を行ってこられました。



編集後記

周南市美術博物館から徳山小学校前まで約650m続く桜並木は、花と緑の都市モデル地区整備事業として、昭和61年10月工事開始平成元年3月工事終了。「緑と文化のプログラム」と呼ばれる満開時には約100本のソメイヨシノのトンネルが出現します。この桜の木が老朽化し、近年朽ちた枝の伐採が進んでいます。今年は開花がどうなるかと近くを通る都度見上げていましたが、時期になったら残っている枝にしっかりと花が咲きました。桜の木も高齢化が進行していますが温かく見守りたいものです。

4月3日に英会話教室の開講式が行われ、今年度の事業がスタートしました。皆様のご協力・ご支援を得て徳山ユネスコ協会の活動を活発に進めたいと思います。